

別紙様式

意見交換会実施報告書

平成 30 年 12 月 19 日

登米市議会議長 及川 昌憲 様

第 1 班 代表者 田口 政信

1. 意見交換会の概要

開催日時		平成 30 年 10 月 19 日 午後 7 時 00 分 ～ 9 時 00 分
開催場所		南方公民館（研修室）
出席議員		代表者：田口政信 司会者：佐々木幸一 報告者：伊藤吉浩 受付：日下 俊・武田節夫 記録者：佐々木好博
参加市民数		11 人
実施内容	議会報告	・議会活動報告について ・財政状況について 30 年度一般会計予算及び当初予算の主なものについて ・常任委員会からの報告
	意見交換	・『登米市の地域医療を考える』 地域医療の現状と方向性を説明

2. 市民の質問・意見等

会場で回答したもの	質 問	(病院) 1. 財政赤字の中で、機能集約して一つの病院を建てるというのには反対だ。 ⇒ 新聞では、病院の移転新築ということが報道されたが、議会の中で市長は明言していない。様々な検討の結果、「その方向性も視野に入れる」ということだった。 2. 医師の労働環境の改善をしないと医師は来ないのではないか。 ⇒ 医師の過酷な労働環境は議会としても把握している。現在、医療局とも話し合いを進め改善に取り組んでいるが、根本的な解決は医師数の確保だと考えている。 3. 医師確保について、議会だよりには「臨床研修病院指定が必要」と書いてあるが、必要な入院患者数を確保できるのか。また、今年から新専門医制度もスタートしているが、栗原や気仙沼などはしっかり対応できているのに、どうして登米市は対応できていないのか。 ⇒ 臨床研修病院指定がすべての問題の解決策になるとは考えてはいない。現在の方向性として、医療局はまずその指定を目指すとしている。議会としては、臨床研修病院指定についての条件はクリアできるものと考えている。 また、「どうして登米市だけが上手くいかないのか」ということだが、患者や市民の気持ち的な部分で、「市民に頼られる」「信頼される」ことが大切だと考えている。施設整備や患者の対応など、そのために多くの課題を解決していかななくてはならない。 また、過去にはその時々で様々な議論がなされてきたが、その中で本当に必要なことを見極めることが難しい状況だった。 4. 独立行政法人化ということも聞いたが、その方向性を目指すのか。 ⇒ 独立行政法人化については、執行部が検討中だと考えている。酒田市の例もあるが、状況も違う。そして、単独で行わなくてはならない登米市にとって、予算的な面も考慮し、本当にそれが実現できるかという検討も必要だと考えている。 5. 現在の赤字体質のままの病院経営をこのまま続けていくことは難しいと思う。病院機能をまとめるなり、それぞれの診療所を個人経営に任せるなどの方向性が必要ではないか。 ⇒ 経営の再建の方法は様々考えられると思う。その中から最善と思われる方法を検討、選択していく。 6. 議員個々人で医師招聘をしていくことも必要ではないか。 ⇒ 現在、病院で考えているのは単発的な取り組みではなくて、全体の流れの中で継続的に医師に来てもらえるような仕組み作りを目指している。
------------------	------------	---

会場 で 回 答 し た も の	質 問	(病院) 7. 地域完結型とは病床数を減らし、その分を各家庭に介護老人を戻すということか。 ⇒ 病床数を減らすということは、数を減らすということではなくて、療養病床を介護療養病床にシフトしていくということ。 地域完結型については、病院や地域のコミュニティも含め、各地域に応じた社会全体で支えていく仕組み作りをしていくということだ。 8. 病院医療について議員個人の意見はなかったのか。議会として今まで何をしてきたのか。 ⇒ 議員個々人の考えは、議会の中で主張されている。その結果の総意として、今まで実行してきた経緯がある。 何もしてこなかったということではなく、これまでも様々な議論がなされ、その中から議会として最善と思われる方法を選択してきた結果だ。 9. 病院事業に参加を置いているが、本当に必要なのか。 ⇒ 仕事の内容については参与の仕事として医療局の中で様々な部分で統括する仕事を行っているという認識だ。
	要 望	(地域審議会) 1. 地域審議会の再開を望むがどうか。 ⇒ 地域審議会は合併特例法の中で設定された会議で、同じ地域審議会を設置することはできない。
	その他 特記事項	参加者の質問から情報が整理されておらず、断片的な情報が錯そうしているという印象だった。もっと分かり易い、丁寧な説明や情報の提供が必要だと感じた。